

中国  
幼児教育分野青年海外協力隊員  
巡回指導調査報告書

平成 14 年 6 月

JICA LIBRARY



J1169179(7)

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

青海二
JR
02-05

15  
16  
12  
ARY

中国  
幼児教育分野青年海外協力隊員  
巡回指導調査報告書

平成 14 年 6 月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局



1169179[7]

## 序文

青年海外協力隊派遣事業は発足以来 37 年目を迎え、2002 年 3 月末までの隊員派遣数は累計で約 22,600 名、派遣実績のある国は 72 ヶ国に及んでいます。

今回の調査対象国である中国に対しては、1986 年の派遣開始以降、これまで約 450 名の隊員を派遣してきました。協力隊事務局では、2001 年 10 月に策定された対中経済協力計画の援助重点分野の中でも「相互理解の増進」を隊員派遣計画の主要な柱の一つとして位置づけ、今後も教育文化部門を中心とする派遣を継続する予定です。

幼児教育分野はその一つであり、今年は初代幼稚園教諭が派遣されて 10 年目という節目の年でもあります。日本の保育理念に基づく隊員活動は、これまで配属先内外から大変高い評価を得てきました。要請数は今後も増加することが見込まれるほか、要請内容も近年多様化する傾向にあります。かかる背景を踏まえ、当事務局では、同分野の派遣中隊員や分科会に対し技術的見地から助言を行うとともに、より効果的な隊員派遣のための提言を導くことを目的として、2002 年 3 月 20 日から 27 日までの 8 日間に亘り、中国へ調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団による調査結果を取り纏めたものであり、今後の幼児教育分野隊員の派遣方針を検討するにあたり、関係者に広く活用されることを期待しています。

最後に、この調査団を派遣するにあたり、ご協力いただきました国内外の関係各位に感謝の意を表するとともに、今後とも格別のご支援をお願いする次第です。

2002 年 6 月

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局  
事務局長 金子 洋三



松井里栄子隊員の活動風景「にぎやかな街にしよう」(重慶渝北幼稚園)



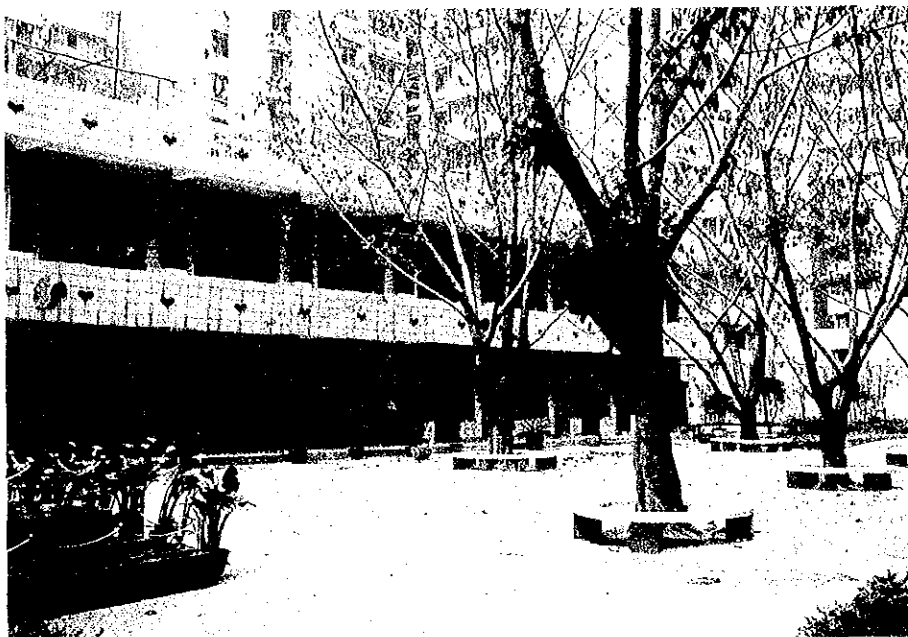
杉田朋子隊員の活動風景「はらぺこあおむし」(太原市康楽幼稚園)



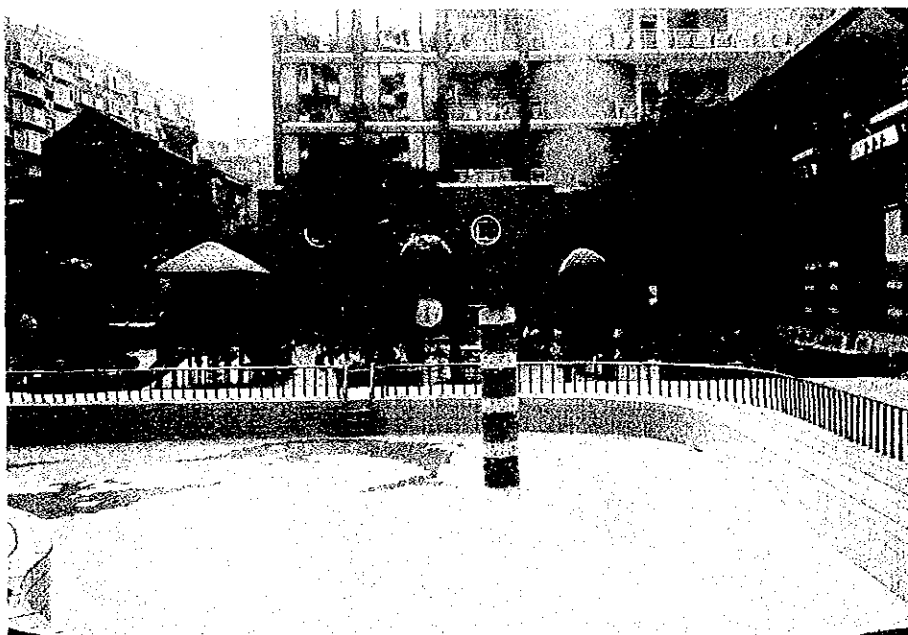
二宮伸子隊員の活動風景（桂林第15中学校）



桂林七星幼稚園のモンテッソーリ導入クラス



重慶市北 区实验幼稚園



重慶市沙区实验幼稚園

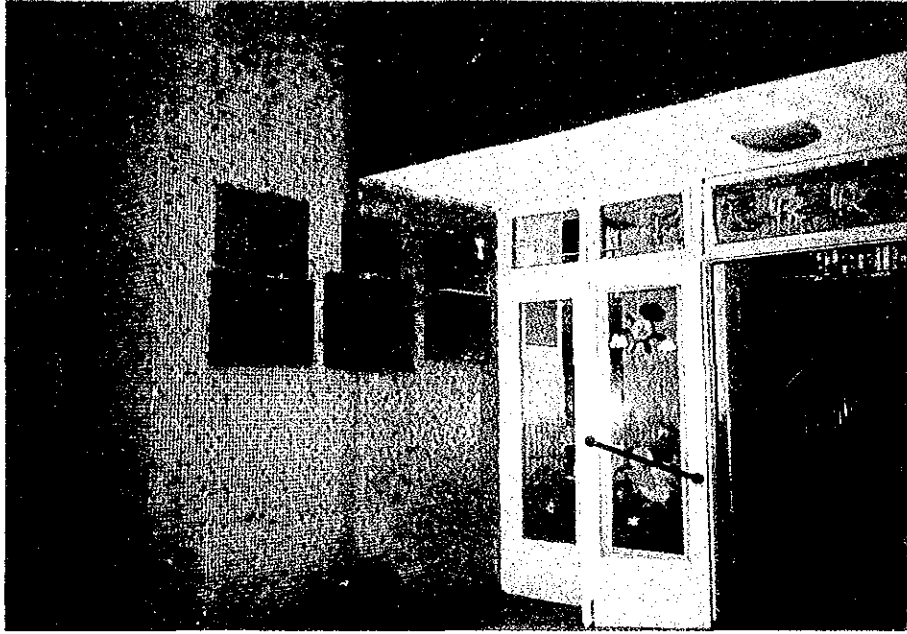




重慶市江北区新村幼稚園



重慶市渝中区实验幼稚園



重慶市南坪實驗幼稚園



JICA 中国事務所における幼稚園教諭分科会

## 目次

序文

写真

第1章 調査概要	1
1-1 調査目的	1
1-2 調査の背景・経緯	1
1-3 調査団構成	1
1-4 調査日程	2
1-5 主要面談者	3
第2章 調査結果	4
2-1 巡回指導調査結果	4
2-2 活動評価調査結果	7
2-3 要請背景調査	7
2-4 中国幼稚園教諭分科会	8
2-5 国家科学技術部表敬訪問	11
第3章 総括	13
3-1 幼児教育分野の問題点と改善案	13
3-2 巡回指導から得たこと	18
3-3 隊員派遣計画	20

巻末資料

1. 中国隊員配置図（平成14年3月1日現在）
2. 面談／視察記録
3. 中国幼稚園教諭隊員の軌跡
4. 重慶市内幼稚園5案件について
5. 分科会用準備資料
6. 隊員出張復命書

## 第1章 調査概要

### 1-1 調査目的

今回の調査は、中国への幼児教育分野にかかる今後の隊員派遣のあり方について、JICA 中国事務所、隊員配属先等の関連機関と協議・検討するとともに、現在派遣中の同分野の隊員に対し、技術的な見地から提言・指導を行うことを目的とする。

### 1-2 調査の背景・経緯

#### (1)中国派遣概要

同国への派遣中隊員は平成 14 年 2 月 1 日現在で 83 名、また、派遣が開始された 1992 年 4 月以降の派遣隊員累計は 450 名にのぼる。教育文化部門（日本語教師、幼稚園教諭、婦人子供服等）の派遣は全体の約 68%と大半を占めており、今後もこの傾向は続く見込みである。なお、同国政府は、拡大しつつある地域間格差の是正を目標に、第 10 次 5 カ年計画として西部大開発戦略を掲げており、今後はこうした国家計画も視野に入れ、地方への派遣を積極的に進めていく方針である。

#### (2)幼児教育分野

幼稚園教諭隊員は、平成 3 年度 3 次隊の初代隊員以降、これまでに計 17 名の隊員が派遣されている。配属先の幼稚園はいずれも「省・自治区・直轄市」、「地区・市」、「県・区」レベルのモデル幼稚園であり、それぞれの地域において幼児教育の中心的な役割を果たしている園である。

創造性・自主性・主体性の育成を主眼に置く隊員の活動は園内外から高い評価を得ているが、その一方で、学習を重視する中国独自の方針とは相容れない部分もあり、活動を軌道に乗せるまでに時間を要するケースもある。

また、中国側は隊員にモンテッソーリ教育を期待することが多いが、日本国内ではこの教育方法を習得している応募者が少ないなど人材需給上の問題があるほか、最近では、現場の幼稚園だけでなく幼稚園教諭養成校からの要請も増えているという新しい局面にきている。

かかる現況を踏まえ、派遣中隊員や分科会に対し技術的提言を行うと同時に、国内の応募状況も考慮に入れた同分野への今後の派遣計画を策定することから、今回調査団を派遣するに至った。

### 1-3 調査団構成

氏名	担当	職位
玄田 初榮	総括	昭和女子大学 短期大学部 初等教育学科 教授
鈴木 日和	派遣計画	社団法人 青年海外協力協会 事業部 支援事業課

1-4 調査日程

月 日	曜	午前		午後	
3月20日	水	10:35	東京→北京 NH905	14:15	北京着 14:30 北京事務所打ち合わせ 18:45 北京→重慶 SZ4136 20:15 重慶着 (松井隊員、重慶科技出迎え) 21:00 打ち合わせ
3月21日	木	9:00	重慶渝北幼稚園視察	13:00	重慶市北 区実験幼稚園 16:00 江北区新村幼稚園 17:00 沙区実験幼稚園 17:30 渝中区実験幼稚園 18:00 南坪実験幼稚園
3月22日	金	7:00 8:30 10:00	重慶→桂林 SZ4319 桂林着 (桂林科技出迎え) 桂林七星幼稚園視察	15:00 20:00	桂林市第15中学視察 二宮隊員、窪田隊員と懇談
3月23日	土		資料収集・整理	21:30 24:00	桂林→北京 CA1226 北京着
3月24日	日		資料整理	20:30 22:00	北京→太原 MU7102 太原着 (杉田隊員、副園長、市科技出迎え)
3月25日	月	9:00	太原市康楽幼稚園視察	13:00 16:00	太原市康楽幼稚園視察 市内視察
3月26日	火	8:00 9:00 11:00	太原→北京 MU7101 北京着 事務所にて打ち合わせ	13:30 ~ 18:00	幼稚園教諭分科会
3月27日	水	9:30 11:00	科技部表敬 個別面談	14:50 19:00	北京→成田 NH906 成田着

1-5 主要面談者

	所屬	氏名	役職
重慶	重慶市科学技術委員会国際合作処	唐 安明	所長
	重慶市科学技術委員会国際合作処	何 珏媚	項目主管
	重慶市教育委員会	黄 蒙淑	
	重慶市教育委員会	任 桂	
	重慶渝北区教育委員会	唐 錦全	
	重慶渝北区教育委員会	陳 位華	
	重慶市渝北幼稚園	夏 仁菊	園長
	重慶市渝北幼稚園	王 淑琴	副園長
	重慶市渝北幼稚園	曹 世琼	副園長
	重慶市渝北幼稚園	周 奕	CP
	新橋医院幼稚園	陳 静	園長
	北 実験幼稚園	古 代	園長
	北 区教育委員会教育局	陳 忙耕	主任
	同 基礎教育局	潘 紅	課長
	渝中区実験幼稚園	朱 晓虹	園長
	重慶市沙区実験幼稚園	熊 正惠	園長
	重慶市沙区実験幼稚園	魏 惠萍	副園長
	重慶市江北区新村幼稚園	劉 静	園長
	重慶市南坪実験幼稚園	任	園長
	桂林	桂林市科学技術委員会	櫨 向堅
桂林市科学技術委員会		李 旭	主任
桂林市科学技術委員会		吳 林佳	副主任
桂林市七星幼稚園		蔣	園長
桂林市第15中学		陳 亜琼	副学長
桂林市第15中学		劉 昌虹	副学長
桂林市第15中学		李 依奇	副学長
太原	山西省科学技術委員会	陳 治金	所長
	山西省科学技術委員会	趙 亜偉	
	山西省康楽幼稚園	樊 俊芳	副園長
	山西省康楽幼稚園	張 晓婷	CP
北京	国家科学技術委員会JICA項目弁公室	龐 仁峰	項目官員
	JICA中国事務所	櫻田 幸久	所長
		大石 千尋	次長
		家田 豊	ボランティア調整員

## 第2章 調査結果

### 2-1 巡回指導調査結果

#### 2-1-1 重慶渝北幼稚園（松井 里栄子隊員、12/3）

##### (1) 視察内容

まず、松井隊員の授業を見学した。手遊びの後「にぎやかな街にしよう」という松井隊員が独自に考えだした活動をした。その活動内容は、何も書かれていない道の絵を子ども達に見せて「この道は何もなくて寂しいからみんなでにぎやかな街にしましょう」と、折り紙でお家をつくり、中に人を書いて、道の絵に貼付けたり、木や花の絵を書いたりするというものである。この活動の時、松井隊員が何もない道の絵が書かれた長い長い模造紙をクルクル広げていったところ、子ども達が大変驚き喜びの声をあげながら惹き付けられていた。子ども達は夢中になって松井隊員の話聞いており、大変すばらしい保育を行っていた。授業見学の後、幼稚園施設内の見学をし、園長、副園長、重慶市教育委員会との協議を行った。

##### (2) 協議内容及び結果

- 1) 団長及び家田調整員から、隊員が日本で研修を終えたカウンターパート（周先生）と一緒に保育が出来ない状況について、園長の意図を確認した上で、隊員と日本で研修を受けた CP とが一緒に活動することがより大きな成果をもたらすことを説明し、新学期からは周先生と共に活動できるように申し入れをした。それに対し園長からは、他の教師への技術移転を望んでいたものの、隊員の意図や気持ちを理解し、9月の新学期からは周先生と共に週3日の巡回型保育指導を開始することです承を得た。
- 2) 団長より日本の保育を肌で感じてもらうため、今後公開保育でより多くの人に見てほしい旨申し入れ、ビデオカメラで松井隊員の保育を録画し保育研究の方法も有効であることを提案したところ、園長からは言葉が上手になればその機会も増え、市全体にも見てもらえるようになるだろうとの回答を得た。
- 3) また団長より、日本では一斉保育していない自由遊びの時こそ子どもと本気で向き合う保育があると考え、大切にしていることや、日本では子どもや先生の服装について、活動しやすい服装や靴を着用することを大切にしていると伝えたところ、園長より理論上は分かっているが現実の活動に生かせない事が中国の課題であるという話があった。

##### (3) 団長コメント

園長が生き生きとして元気がよいためか、園全体の子どもたちも生き生きしていた。教育を担当する教師と教育以外の生活面（以下、これを養護と呼ぶ）を担当する保育員との区別がはっきりしていることが気になったが、複数名がクラスを担当するチーム保育はすばらしいと思われた。

松井隊員の保育（「にぎやかな街にしよう」の活動）については子どもの感動が伝わ

りとても良かったが、保育を行った松井隊員と担任の中国人教師（1名）と保育員（1名）との間で、製作過程における子どもへの対応・方法が共通理解されていなかったことを指摘、子どもが楽しくて意味のある保育にするためには、三人での事前打ち合わせが必要である旨を松井隊員に助言した。

## 2-1-2 桂林第15中学校（二宮伸子隊員、12/1）

### （1）背景

同配属先はいわゆる職業訓練高校であり、当初の要請内容は幼児教育の実習指導であった。こうした教師養成機関への派遣は、中国幼稚園教諭派遣の新たな方向性として今後要請が増える傾向が予想される。

職業訓練学校の卒業生は通常保育員にしかならず、幼稚園教諭になるためには師範学校に進まなければならないが、同校からは80人中10人程度しか進学していない。また、学校内に付属の幼稚園がないため、実習をするために最上級生の3年生は外部の園に保育員の補助として1年間出てしまう。これらのことがネックとなり、要請に応える活動を展開することが大変難しい状況であるため、二宮隊員は、約1年間は学校側からの依頼で日本語教師の活動をメインに行っていた。その後中国事務所と学校側との話し合いを重ね、徐々に幼児教育の活動を増やし、現在は日本語と幼児教育を半々に行っている状況である。

### （2）視察内容

最初に二宮隊員が団長に挨拶を依頼した。団長は学生に対し、「子どもが好きな人は先生になって下さい。子どもが好きな人は良い先生になれます。」と話した。

この日の授業はペープサート製作で、はじめにペープサート製作について注意する点を講義し、「かえるの親子」を中国語で実演した。その後、グループに別れて絵を描いた。（第1週目でグループ分けと物語作りを行い、この日は第2週目であった。）

その後、調査団は副団長に挨拶をし、施設内および隊員の住居を見学した。

### （3）団長コメント

要請内容と実際の状況が異なるも、立派な貢献を果たしている。また、模索しながら、活動がどうあるべきかを考えている姿勢はすばらしい。

学生と話をしたところ、幼稚園の先生になりたい人が2名もいたが、これは大きな協力効果であり、そういう学生を大事に育てて欲しいと考える。二宮隊員は、自分が何が残せるのか悩み苦しんでいたが、二宮隊員の授業は、学生の心に一生残ると思われ、それは目には見えないが確かな成果と言える。

卒業生の進路については、先生にならないのではなく、なれない状況を学校側が把握し、出口を探す努力をするべきである。

なお、全体的に自分のイメージ通りの創作表現をするグループが少なく、カット集やスケッチ本など、既成のものに頼って模写する表現が多い。きちんとした完成を性急に求めがちで没個性の教育になり創り出す意欲に欠けていると思われたため、「創造的学習」をする学生を養成するよう二宮隊員に勧めた。

## 2-1-3 太原市康楽幼稚園（杉田朋子隊員、13/1）



### (1) 視察内容

隊員が担任をしている3歳児日本式クラスの授業を見学した。隊員と中国人の先生と保育員2人とのチーム保育をしている。まず、隊員がピアノを弾き、はじめに中国語で、次に日本語で歌を歌った。続いて、隊員が作った人形とペープサートで「はらぺこあおむし」のお話を聞かせた。その後は、工作をするグループと、自分の好きな自由遊びをするグループとに別れて活動をし、工作が終わった後、作った玩具を使い、戸外で遊んだ。授業見学の後、施設内を見学し副園長との協議を行った。

### (2) 協議内容

- 1) 前任者のカウンターパート（張先生）が日本での研修を終えて帰国しているが、隊員が担任をする3歳児クラスを一緒に見ていない状況について、団長から副園長および張先生にその理由を確認したところ、張先生は現在4歳児クラスの担任をしており、来年度はもち上がりで5歳児を担当することになるため、3歳児クラスを見てもらうことは出来ない旨、副園長から回答を得た。ちなみに、4歳児クラスは隊員が張先生と一緒に担当している。
- 2) 団長から副園長に対し、杉田隊員は2代目となるが、隊員に何を求めているのかを確認したところ、副園長は1代目の隊員が帰国した後、時間がたってから、園児や先生方のちょっとした変化に気づき、徐々にその効果を認め再度要請をあげたとのことで、廃材利用や工作などの創造力を養う活動について大変勉強になると話した。杉田隊員に望むこととしては、もっと他の教師と中国語での交流をして欲しいとの回答があり、団長から副園長に対し、杉田隊員は3歳児と4歳児の掛け持ちで隊員と他の教師との交流時間がもてない旨理解を求めた。副園長は園としてはクラスをどちらか一方にすると、親から不満が出るため出来ないが、一クラスの保育時間を短くしても良いと提案された。しかし、隊員としては、小間切れ保育をすることとなり、日本の保育の良さを伝えることが出来なくなるため、それは好ましくないと回答し、結局話し合いは解決には至らなかった。

### (3) 団長コメント

この幼稚園は大変大きくて立派な幼稚園であり、実験クラスに意欲的で発表やコンクール等への参加も積極的であり、先生方も努力している。

見学した保育はとてもよく、杉田隊員は3才児クラス（小班）担当として期待されている。中国語でのお話を園児が楽しそうに聞いており、時々分からない単語などは中国人の先生に助けられながら、上手にコミュニケーションがとれていた。保護者から「杉田先生がいるからこのクラスにいられた」と言う声も聞かれ、保育活動は認められている。また、園便りの中に日本の保育を紹介する等保護者向けに日本の保育を広める活動にも意欲が見られた。

上記協議内容のとおり、カウンターパートとの問題は未だ解決していない。今後も中国事務所のフォローが必要であると思料される。

なお、中国における隊員活動は職場での人間関係が大変重要であり、今後も人物面接及び技術面接にて、調書からは読みとれない園での人間関係の善し悪しを多角的、多面的にみることが重要であると再認識した。

## 2-2 活動評価調査結果

### 2-2-1 桂林七星幼稚園（林 陽子隊員、11/1、帰国済）

平成12年7月まで、林隊員がモンテッソーリ導入の活動を行っていた。現在はモンテッソーリクラスが1クラス増え、教室は3クラスあり、全員に毎日40分間実施している。

教師三名が北京で180日間のモンテッソーリ教授法の研修を修了し、園長も本年7月受講予定とのこと。北京で購入したというモンテッソーリ教具もあるが手作りで工夫された玩具を使用していた。園長になぜモンテッソーリなのかを確認したところ、自主性と創造性を養うためとの回答であった。

先生と園児が一体化し、いい雰囲気での授業がすすめられており、先生が一人一人の子どもに静かに話し掛けるような指導を行い、子どもの情緒も安定していた。実際にモンテッソーリ指導の隊員が入った場合、隊員自身も学ぶことが多く、交流を通じ互いに良い効果を生むであろうと思料される。

## 2-3 要請背景調査結果

### 2-3-1 重慶市内幼稚園視察（5園）

(1) 各園について（詳細は巻末資料「重慶市内の幼稚園5案件について」参照）

- 1) 重慶市北碚区実験幼稚園：園長の教育理念がすばらしく隊員にとって学ぶことが多い。
- 2) 沙区実験幼稚園：日本と中国の保育交流が目的。知育玩具を使うクラスがあった。
- 3) 江北区新村幼稚園：日中交流を通じて勤勉さ等の良い点を取り入れたいと希望。園長30歳。
- 4) 渝中区実験幼稚園：子どもの息づかいが最も感じられた。米国留学経験の園長に学ぶ事が多い。
- 5) 南坪実験幼稚園：都市開発で住宅と共に作られた立派な園。研修等可能な大講堂がある。

(2) 要請について

今回、重慶市内で5カ所の要請があがっていることについて、調査団内で協議の結果、地方科技及び市教育委員会の理解や協力は大きく、期待もされているため、出来るだけ5件の要請に応えられるよう善処したいという結論に至った。

これは、5件の要請内容が主として交流が目的である事から、同地域に複数名の派遣が可能であれば、点ではなく面でのネットワーク化を図ることにより、グループ活動を展開し、その地域の幼稚園への情報発信や地域の活性化など、一層効果的な活動が展開出来ると思料されるためである。ちなみに、中国では既に長春の日本語教師派遣において、交流を主目的とした上記のようなグループ活動を展開している。

幼稚園教諭が中国に入ってから10年程がたち、この機会を一つの節目として積極的に取り組むべく、重慶における幼稚園教諭についても、こうした展開を検討してみる価値は十分あるものと思料される。

ただし、現実的には人材の確保が難しいことから、1～2年をかけて全要請に応えるべく、各隊次毎に派遣を検討することになる見込みである。

#### 2-3-2 重慶市内の幼稚園について

特徴的なのは、日本式を教えて欲しいというのではなく、対等な幼児教育交流を要請の目的としている園が多いことであり、各園の園長はそれぞれ大変個性的で、それぞれの園に教育理念が感じられる。しかしながら、今中国で広まりを見せているモンテッソーリ教育を取り入れている幼稚園は見られなかった。

重慶は都市開発政策により建設ラッシュであり、病院と幼稚園がセットで新築されている。現在、市内幼稚園児数約60万人、幼稚園教諭数2万人以上、幼稚園1万3千箇所とのこと。

市の教育委員会が隊員要請を積極的に進めようと努力しており、市科技も協力的であり、重慶市の園長を日本で交流研修させたいという意見も聞かれるなど、関係機関の理解と期待は大変大きいと感じた。

#### 2-4 中国幼稚園教諭分科会

##### 2-4-1 概要

平成14年3月26日(火)午後、JICA 中国事務所において、調査団と家田調整員の出席のもと、幼稚園教諭分科会が開催された。ここでは、まず今回巡回指導を受けていない隊員が活動内容と活動上の課題について報告した後、団長より調査結果を踏まえて提言、最後に質疑応答を行った。なお、今回の分科会に出席した隊員は以下の6名である。

- 窪田 景子 (12/1、柳州市直屬機關幼稚園)
- 岸本 桐葉 (12/3、北省黃岡市代代紅幼稚園)
- 松井里栄子 (12/3、重慶市渝北幼稚園)
- 久保 恭子 (13/1、株州市婦女兒童活動中心)
- 松田 直子 (13/1、鎮江市級機關第二幼稚園)
- 杉田 朋子 (13/1、山西省康樂幼稚園)

##### 2-4-2 活動内容及び活動上の課題にかかる報告

###### (1) 久保恭子 隊員 (13/1、湖南省株州市婦女兒童活動中心)

日本式実験クラス「さくら組」が出来て1ヶ月目、園児28名、教師2名である。CPがつい先日日本の研修から帰国したばかりで、これから一緒にクラスを担当できる。これまでは、通常3～4人で担当するところを、2人で担当していたため忙しく、昼休みもとれない程であったが、CPが帰国したことにより今後は3人で担当できる。ただし、今後CPが日本語教師のように使われてしまわないか心配である。

日本式クラスは授業料を通常クラスの2倍とっている。園児募集の際はそんな高額で集まるのかと心配したが、中国人の先生がピラを配るなどしてくれ、自分は親の目

を引くような保育室の環境整備に取り組んでいた。それが功を奏したのか結果的には28名の幼児が集まった。ただし、親の評価が悪いと、来期にクラスが無くなるかもしれない。

約半分の生徒が全託のため、生活上の世話もする。しかしながら、昼も休まず子どもに付いているため疲れ切って全託の子を夜まで見られない。そんな全託の子どもが本当に幸せなのかどうか不安になる。

今後は、日本の保育として「一人一人を大切にすること、先生と子どもの距離が近いこと、遊びの中でいろいろなことを学ぶこと、子どもの自主性を大切にしていること」等を伝えて行きたいと考えている。

#### (2) 岸本桐葉 隊員 (12/3、湖北省黄冈市代々紅幼稚園)

赴任して1年が経とうとしているところで、ようやく自分のすべきことしたいことが見えてきて、仕事が軌道に乗ってきた。しかし、せっかく自分のやる気がピークなのに、CPや周囲の環境が変わってしまった。調子が出てきてとばしたい自分と、来たばかりのCPとのペースが合わず、19歳のCPに自分の意見をぶつけてみるが、一方的になって意見交換にならない。自分に遠慮しているようで物足りなさを感じる。

日本式クラスといいながら、実際には日本人とふれあうことだけで満足してしまっている。日本の保育として「子どもと向き合う保育」を目指している。今後は、2週間に1回のペースでビデオを使って先生向けに講義をしたい。

#### (3) 松田直子 隊員 (13/1、江蘇省鎮江市級機関第二幼稚園)

園児は毎日通園する日託のみで、お絵かき、速読、算数といったお勉強に熱心な園。

自由遊びを生かした活動がしたいが、そういう遊びよりお勉強という空気には抗えないため伝えたいことが伝えられない。しかし、自分の導入の仕方を良く見てくれ、ほめてくれた。導入を認めてくれているので、見てくれるところから伝えていこうとは思っているが、朝から帰るまでのトータルの流れを見てもらえないのが残念である。

これまでCPと話をする機会があまりなく意志疎通が出来ていなかったのも、今後はもっと良く話をするようにしたい。

また、騒音や道路に面した1階で窓が開けられない等住居状況が劣悪で、2週間前に次長と調整員が配属先を訪問し1ヶ月を目途に新居を探すことを約束。様子を見ることになっている。

#### (4) 窪田景子 隊員 (12/1、広西壮族自治区柳州市幼稚園)

活動期間の残りが3ヶ月となった。1日や1週間では分からない変化を、ここまで来て感じ始め、協力隊の任期が2年間であることの意義が感じられるようになった。一年目は午前中子どもとふれあい、午後は教具教材づくりをしていた。二年目になってやっと親といろいろな会話が交わされるようになり、モンテッソーリについて相談にのっている。モンテッソーリクラス指導者として、3クラス6名のCPに対し指導助言をしている。

最近先生方が自分たちで計画を立てて言ってきてくれるようになった。しかし、どうしても3クラスの進度に差が出てきてしまう。それに対し、園長は担任の力量が原因と言うが、自分が何かをしなければというプレッシャーを感じる。自分自身、園長先生と考え方が非常に似ており、多くを語らなくとも分かり合える。

授業は直接担当していないが、週に3回日本語ミニ講座を始めた。この日本語クラスについては、ずっと親からの強い要求はあったが、やりたくなかったため実施し

なかった。今回も、やりたくない子にはさせないことや、簡単な導入しか出来ない旨を説明し開始した。

### 2-4-3 団長による提言事項

#### (1) 保育方法に関して

- ・本当に好きな遊びであれば、子どもは自然な姿で熱中して遊ぶ。
- ・一つのクラスを中国人教師・保育員と複数で行うチーム保育では事前の打ち合わせが重要。
- ・幼稚園の子は白いお餅のように良くも悪くも変わりやすい。
- ・一人一人を生かす保育を実現すること。
- ・一人一人とは、個別・個性を意味しており、個性を一人一人に発揮させることが大切。
- ・共感の世界だけでなく、中国人教師と共有することが大切である。
- ・子どもが楽しく生き生きしているかということが、「よい保育」の評価の基準になる。
- ・子どもの発達の節目を見ること。
- ・子どもが楽しそうなことをさせる。
- ・親の顔色をうかがうよりも、子どもの目を見て、子どもの方を向いた保育を心がける。
- ・流れのある保育を大切に、活動や遊びを細切れにしない。
- ・子どもは24時間生きている。全託の夜間の生活を知るべきである。いくら隊員に関係ないと言われようとも、連絡表などで夜の担当者との連携を持つことが、一人一人の幼児を真に理解することになり、その理解に基づいて対応することで、子どもからも信頼され「一人一人を生かす保育」が構築できる。

#### (2) 日本の幼児教育について

- ・日本の保育を伝えるためには、日本式保育（クラス）の具体的なイメージを自分が描き出してみる。
- ・いい保育を見せること、良く準備をし理論より肌で感じてもらうこと。実践をナマで見ってもらう機会がないときには、ビデオで見ってもらう。共通の研修の場を設けて、「日本の幼児教育」を理解してもらうことだ。失敗があっても良い。実践勝負で姿を見てもらおう。
- ・日本の保育は四季、環境を大切にしている。このような視点が大切である。
- ・訴える力のある、説得力のある保育をして、見て感じてもらい、共有の域までにしたい。実践力で日本の幼児教育をアピールしよう。

#### (3) 活動の姿勢について

- ・失敗することで、困難に際して初めて成長するので、失敗を恐れないこと。
- ・カウンターパートや周囲の先生方との人間関係は大切。信頼し合うこと。
- ・つらいこと苦しいことを喜びに変えていくように善処していく事が大切。
- ・どんなに不満でも、十分でなくても、あてがわれた環境の中で設計図を描きやってみることだ。必ず共感者がいるはずだ。
- ・中国のいいところを生かしながら、2年間で出来ることをして欲しい。
- ・帰国後日本の保育にも中国での経験を生かしてよりよい保育の実現を目指して欲しい。

い。

#### 2-4-4 質疑応答 (以下、Q: 隊員、A: 団長)

- Q1 初代で周囲も慣れていないため CP から距離を置かれもどかしい。
- A1 人間関係は難しいのが世の常。好きな人、分かってくれる人から近づいていく。
- Q2 出来ることと出来ないことがある。与えられた環境の中で日本と比べて分からないこと、理解できないことには抵抗を感じる。(例えば、お昼ご飯を食べるときは話をしてはいけない。中国人教師は「しゃべるな!」「早く食べる!」ばかり。その理由を聞いても、食道が細いから、エチケットが無いから等納得出来ない。)
- A2 少しずつ変えていくしかない。
- Q3 全託の迎えが来る金曜日に親を待つ間、自分は好きなことをさせておけばいいと思うが、中国人教師は静かできちんとした様子を見せるため、テレビを見せたり押さえつける。
- A3 「本当にそれがいいことなのか、子どもにとって幸せなのか?」をまず考えること。
- Q4 自然な問いかけに子どもが答える事を中国人教師は好まず、発言時手を挙げさせる。
- A4 出来ることから手をつけること。真実は一つであるので、中国人教師とよく話し合うことが大切。
- Q5 半年に一度園児を募集をする。時間を柔軟に使える時間割にしたいが、半年後にクラスの評価をされることになっており、子どもの成長を見ることが出来るのか不安。
- A5 親に啓蒙、アピールする必要がある。写真の展示(既に隊員はしている)やクラス便りを出すなどしてみてもどうか?
- Q6 親の参観について、親同士の話がうるさくて困っている。
- A6 小グループにして参観する等対処してみても。
- Q7 中国では良く描けた絵しか貼らない。
- A7 良いと思ったことを、実際やってみて、見て感じてもらうことが大切。

#### 2-5 国家科学技術部表敬訪問

平成14年3月27日(水)、国家科学技術部 JICA 項目弁公室に龐仁峰氏を表敬訪問し、協議を行った。

##### 2-5-1 団長による結果報告

隊員はやりたいことをやらせてもらっているが、隊員の中にはもっと努力しなければならぬ者もいると感じた。

また、中国の隊員は皆各地の科技に大変お世話になっていることを実感した。住居の配慮や活動上の問題点、配属先と隊員の間における調整役など、多岐にわたる心遣いや親切の恩恵で、隊員達は常に助けられており、多くの隊員と各地の科技は大変に

親しい間柄である。また、今回の出張を通して、各地方科技の心遣いや親切に本当に助けられ、楽しませていただき、心から感謝したい。科技の果たす役割は大変に大きく、中国における協力隊活動にとっては不可欠であり、それがこの国での協力活動が継続し発展するカギを握っているといっても過言ではない。龐氏についても、隊員からの報告書に全て目を通していただき、その活動について深い理解と協力を惜しまず、常に隊員の事を心配し、万事を尽くしてくださっている。国家科技部及び各地の科技への心からの感謝をここに表したい。

中国の幼稚園教育について、長い時間の保育については、日本にとっても今後の課題であり、大変参考になった。全託の制度については、3歳児などにとって本当にふさわしいのかどうか疑問に思った。また、中国の先生方や子どもたちの服装や靴は活動に適していないものをよく見かけたので、汚れてもよく安全で活動しやすい服装や靴を身につけるよう気をつける方が良いと感じた。

今回視察した幼稚園は日本の幼稚園より建物が立派で人数も多く、規模が大きいところばかりであった。中国は貧富の差が激しいと思われるが、今回の視察では貧しい子の保育を見ていない。そういう所からの要請があれば是非隊員を送り、協力隊精神を生かしたい。

これからも中国の良さ、日本の良さを交流し、子どもが幸せであることを祈る。

#### 2-5-2 先方コメント

協力隊員の報告書は全て目をとおしており、報告書は中国の幼児教育にとって大変有益であると感じている。貧困地域への派遣については、今後要請があがれば出していきたい。貧困対策も中国の課題であると認識している。